日本道徳教育学会神奈川支部　「オンライン道徳フォーラム 2021」

●開会あいさつ（澤田先生）
・関係の先生方、ありがとうございます。
・本支部も 9 年目に入りました。産声をあげたのは H25 年。その直前、第 2 次安倍内閣は、2 月の第 1 次提言で「道徳の教科化」を最優先課題とし取り組むことを表明。H26 末に指導要領改訂。H27 から先行実施、教科書がつくられ、H30（小学校）H31（中学校）から教科書給付、記述式評価導入。怒涛の 7 年間。
・この間、田沼先生のリーダーシップのもと、全国の先駆けとして様々な課題に取り組んだ。
・S33 から 60 年を経て生まれ変わり、道徳科という新時代の扉は開かれた。
・ただし、昨年はコロナ禍で、デジタル化の中もがき苦しむ 1 年の道徳科。
・道徳教育は、未来を拓く主体性のある日本人の育成に資する。
・道徳科と子どもたちの未来を育むためお集まりいただきありがとうございます。

●支部長あいさつ（田沼先生）
・3 度目の緊急事態。オンラインでの学会活動を続けざるをえない。
・これからの学会活動の在り方をともに考えていくという点では意味ある貴重な体験をしている。
・本支部は、創設 8 年経過。10 周年への歩みを開始する。
・飛躍的な発展に向けて、第 5 期 2 年間で、組織リニューアル、事業内容の再構築等しっかり定めていきたい。
・本日のフォーラム。神奈川支部は、積み重ねをしっかり行ってきた。学会は、目的を共有する者が自主的に活動することが保証される社会貢献活動。風通しのよい組織づくりが大切。本支部は、若手からベテランまで様々な年代が役割を担っている。ここが神奈川支部のよさ。
・今後の神奈川支部の発展を願って。タイトな日程ですが、意義あるフォーラムになればと思う。本日はよろしくお願いします。

●支部総会（議長：小笠原先生）
・事業報告（森先生より）

・令和 2 年度会計報告（本田先生より）
→会費振り込みになった、14 万円の収入は本支部の前身の研究会からの寄付

・支部第 5 期役員選出（木村先生より）

・令和 3 年度事業計画案（森先生より）

・令和 3 年度予算案（本田先生より）

・会則の変更について（森先生より）
→第 4 章第 11 条にある「役員の任務」の変更
「理事は、総務委員会、研究推進委員会、企画委員会、広報委員会、理事会のいずれかに所属して支部の運営にあたる。」という提案。役割の明確化。各委員会での活動をスムーズに進めていくため。

1. 提案 14:00 - 14:10

提案：小倉健太郎 先生

司会：吉野　剛史 先生

(1) 支部テーマ

道徳科の指導と評価の一体化を目指して ～一人一人の生き方を励まし、勇気づける授業づくり～

(2) 背景

「予測困難な時代／既定路線の無い時代」

例：技術革新、グローバル化、コロナ禍…

(3) 道徳教育及び道徳科の果たす役割

子どもたちが自分のよさや可能性を認識し、他者を尊重する活動を通して持続可能な社会の作り手となっていく。その資質能力の育成こそが道徳教育の果たす役割。

(4) テーマ「指導と評価の一体化」について

多くの教員が苦労している道徳科の評価であるが、上手く扱うことで教師の授業力向上にも大きく貢献する。明るい未来に向かっての生き方が励まされ、(明るく前向きに生きていく力を培ってほしい)

(5) サブテーマについて

昨年度までとの違い：一人一人の子どもへの着目

中教審答申「『令和の日本型教育』の構築を目指して」にもあるように、新しい時代を担っていく子どもたちの教育に際し、個別最適な学びの視点が重要である。学ぶべき価値を単に押し付けるような授業ではなく、学びが多様な個々に帰着するような授業を。

そのためには、授業構成を子どもたちの具体の姿と照らし合わせていく必要がある。明確な視点を持って子どもの姿を検証し、理論と実践を往還しながら一人一人の子どもの学びを見取っていく。

2. 協議 14:10 - 14:20

主な協議の視点：見取り／評価の困難さについて

・具体的にどのような視点から子どもの道徳性の成長を見取っていけばよいのか。現状では普遍的な基準などは見出せていないが、神奈川支部で研究を進めていきたい。

・見取ることやその検証が困難であるがゆえに、研究に関連した授業が評価のための授業になってしまうことは避けなければならない。

・個別最適な学びに際し、ぜひ特別支援の視点を。特別支援学級／特別支援学校の先生方が中心となって。

・テーマとして掲げることで、どうしても評価にばかり目が行ってしまいそうになるが、子どもたちにとっての授業の楽しさを忘れてはならない。

研究実践発表「私の道徳科授業」

提案①

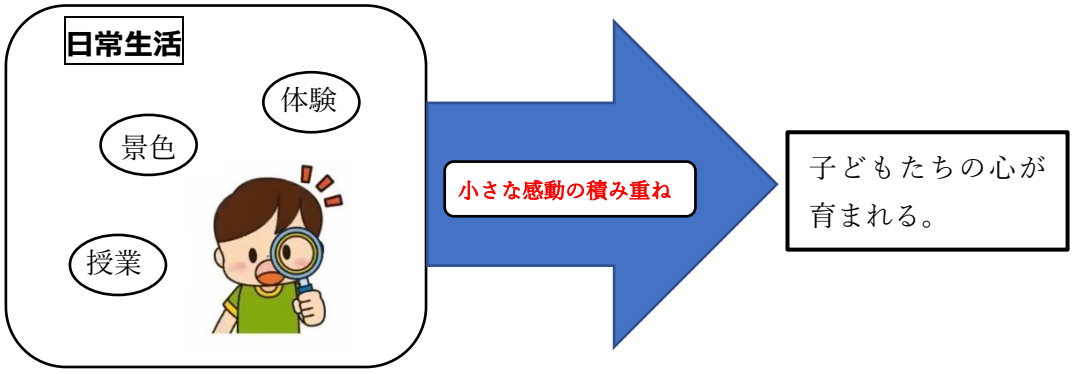
田屋裕貴先生（相模原市立横山小学校教諭）

「学級経営＋授業＝生活から心を豊かに育む」

私の道徳科授業　４つの視点

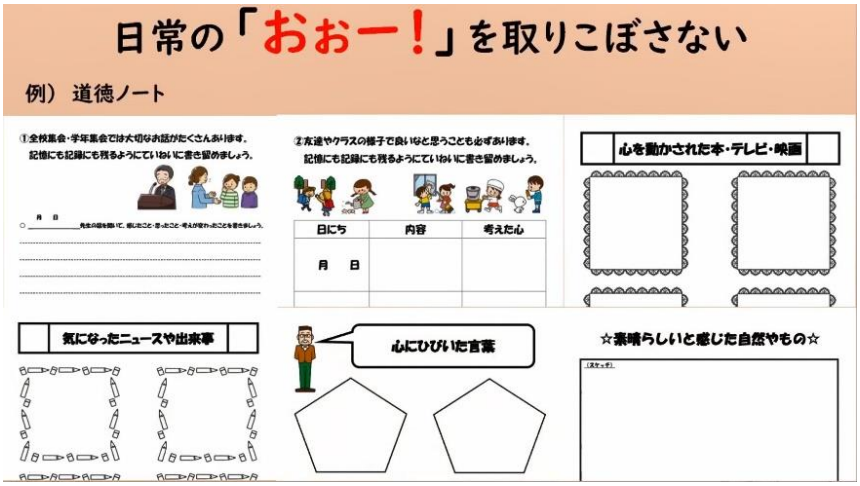
① 道徳環境づくり(学級経営)
② 教材との出会い
③ 展開・発問・板書
④ 授業外の姿

最近、心が動いたこと・・・ありますか？

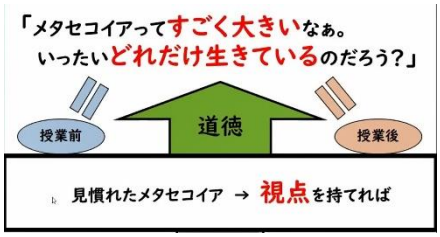


① 道徳環境づくり（学級経営）

ｉ）日常の「おぉー！」を取りこぼさないための道徳ノート



ⅱ）日常の場面に視点をもてるようにする

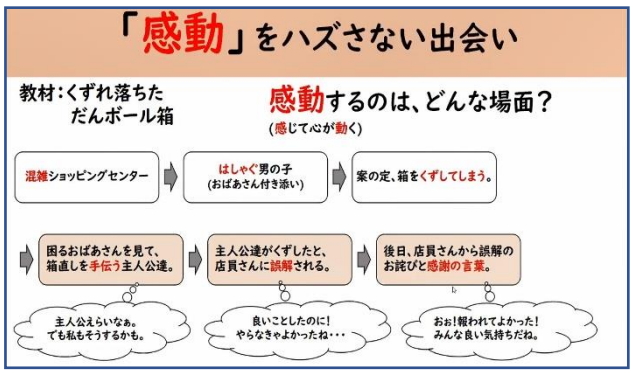


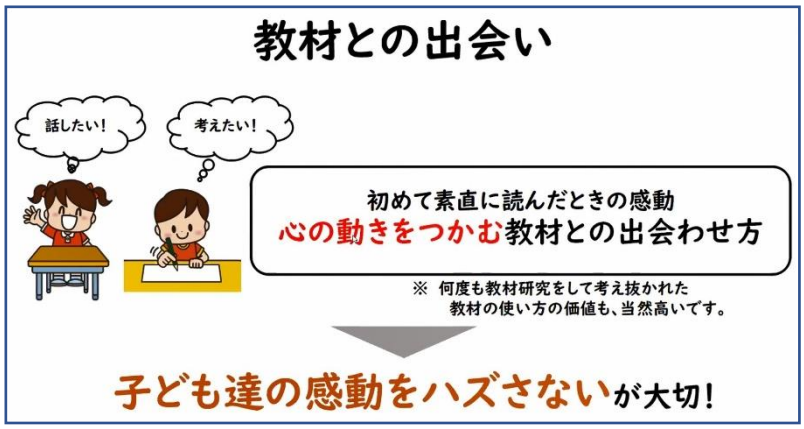
本校のメタセコイアも、道徳の視点をもつ事で、生命について興味が湧いてくるようになる。
授業前から視点をもつ児童がいれば、授業後に学んだ価値をもとに視点をもつようになる児童もいる。教師が指定するのではなく、偶発的な子どもたちの気付きや感動を大切にしたい。

② 教材との出会い

大事にしていること「感動をハズさない」

子どもたちが教材を読んだときに、心を寄せやすい、考えたくなるような場面をハズさないような教材の扱い方が大切。
心の動きをつかむ教材との出会わせ方をする事で、この後の展開で、話したい、考えたいという気持ちが強まる。





③ 展開・発問・板書

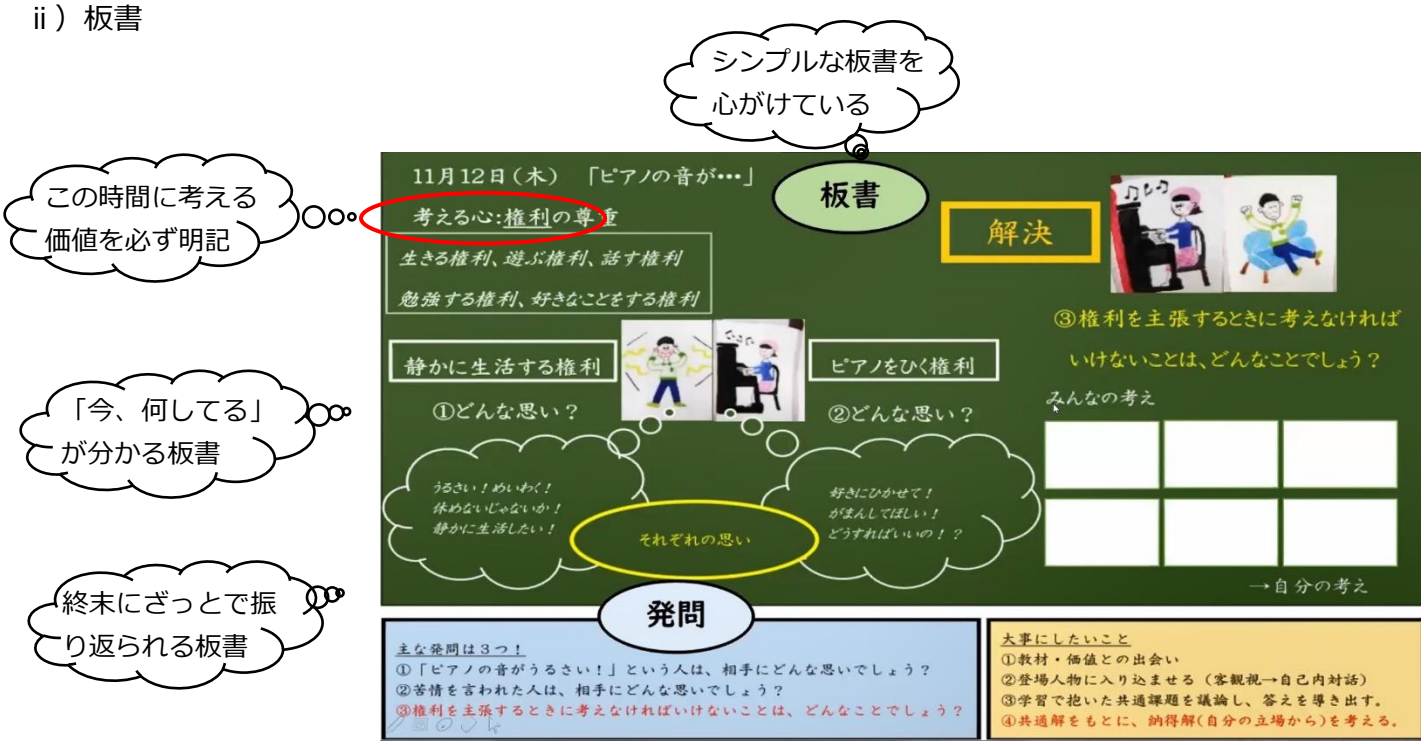
ⅰ）展開と発問について

導入・・・共感を大切にしている。
価値に触れる
内容に興味を持たせる

展開・・・価値について語りたくなる
事を意識。

発問・・・感動にせまる問いを意識
価値を深める問い
自然と考えたくなる問い
子どもたちが自分たちで
問いを作っていけるのがベスト

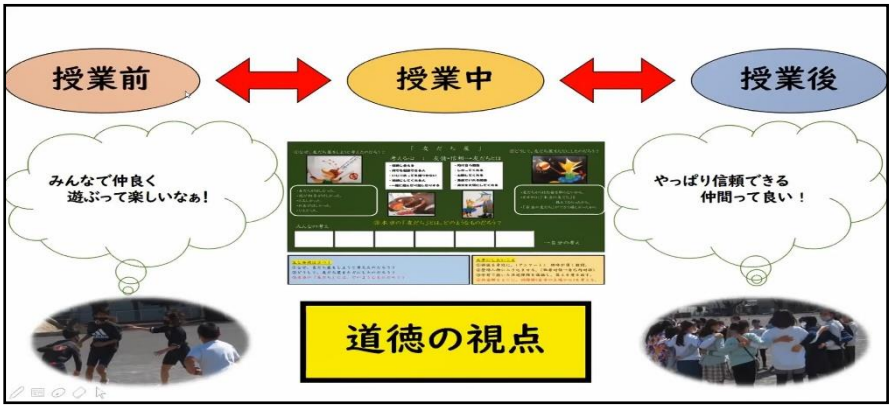
ⅱ）板書

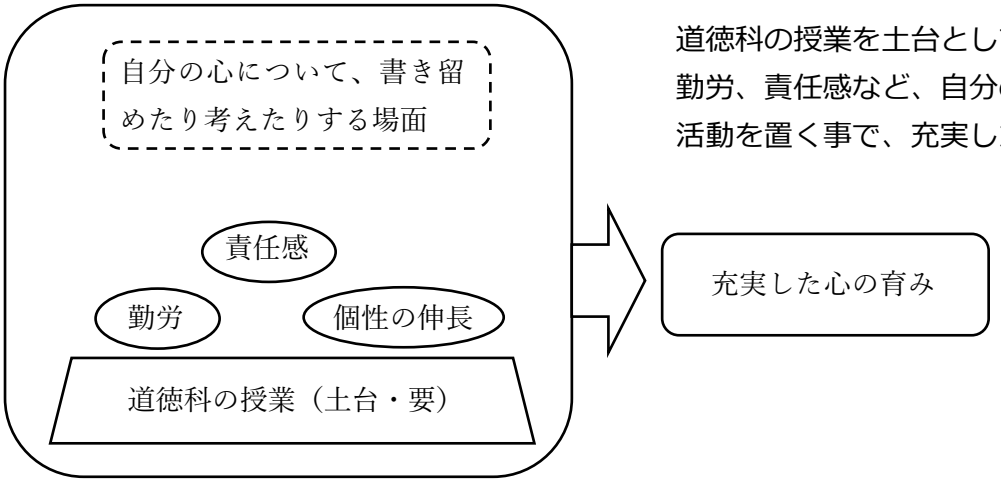


導入・展開・まとめで全員参加できるような展開、板書を心がけている。

④ 授業外の姿

子どもたちの心が育まれるのは、生活の中が多いのではないか。
子どもたちは、授業の中で価値について考え、深めていく。
授業前や授業後の生活の中で子どもたちが道徳の視点をもてるような手立てが必要。





道徳科の授業を土台として、それを彩るものとして勤労、責任感など、自分の心について書き留める活動を置く事で、充実した心の育みができる。

私の道徳科授業　まとめ

① **道徳環境づくり**(学級経営)
感動を取りこぼさない　日常に視点をもつ

② **教材との出会い**
子ども達の感動をハズさないが大切！

③ **展開・発問・板書**
導入・展開・まとめで全員参加

④ **授業外の姿**
授業と授業外がつながり合う環境

質疑応答

Ｑ１（参会者）

・道徳教育の全体計画別葉は、活用しているのか？

Ａ１（提案者）

・道徳主任を中心に別葉を作成しているが、教員によっては単元型にしたり、行事と組み合わせたりして崩しているのが現状。

Ｑ２（参会者）

・道徳教育の全体計画別葉の扱いについて、工夫している事はないか？

Ａ２（参会者）

・各教科等の教育活動において、計画を立てると、別葉につくる教科横断的なグランドデザインづくりになる。

Ｑ３（参会者）

・本提案は、「学級を良くするために、学級経営に道徳科の授業を活用した実践発表」と「道徳科の授業を良くするために、学級経営を土台にしているという実践発表」のどちらであるか？

Ａ３（提案者）

・学級経営にも道徳の視点の要素を入れないと、道徳の授業が豊かなものにならないと感じている。道徳の授業を含め、各教科の授業を豊かにするために学級経営をもとにしている。

感想（参会者）

・「補充・深化・統合」の視点からも、子どもたちが普段気付かなかったものを、道徳科の授業で扱うというアプローチの仕方も必要ではないか。

Ｑ４（参会者）

① どのように道徳ノート（ワークシート）を活用しているのか？

② 「子どもの感動を授業に生かしていく」とは、どういう事か？

Ａ４（提案者）

① ワークシートをファイルに綴じさせていて、持ち帰りもでき、いつでも自由に書き込めるようにしている。また、子どもたち同士で感動を伝え合う時間を定期的に設けている。

② 自分が教材を読んで、面白い、ここは考えてみたいと最初に思った所は、子どもも同じだろうと考え、その感動をハズさないようにしている。

Ｑ５（参会者）

・感動とねらいとする内容項目との関連をどのように考えているか。

Ａ５（提案者）

・教材で扱う価値は、板書で明記している。価値の視点から教材を読んで、考えたくなる部分を中心に置き。その価値に近づくような要素をつけていく。

Ｑ６（参会者）

・「提案の感動」と、価値項目「感動・畏敬の念の感動」の違いは？

Ａ６（提案者）

・「提案の感動」は、子どもたちの心の動き。

「感動・畏敬の念の感動」は、心の底から大きく心が変化する事ではないか。

感想（提案者）

・普段の感動をワークシートに書き溜めておき、どういうものに感動したのかを分類、集計しておくと、「感動・畏敬の念」の授業を行う際に役立つ。

提案②

吉田雄一先生（綾瀬市立綾西小学校教諭）

「私の道徳科授業」

（本日提案する内容）

①子どもと創る授業

②子どもを考えを揺さぶる手立て

③私の考える道徳科授業の深め方

①　子どもと創る授業

教師と子どもが一緒に創る。

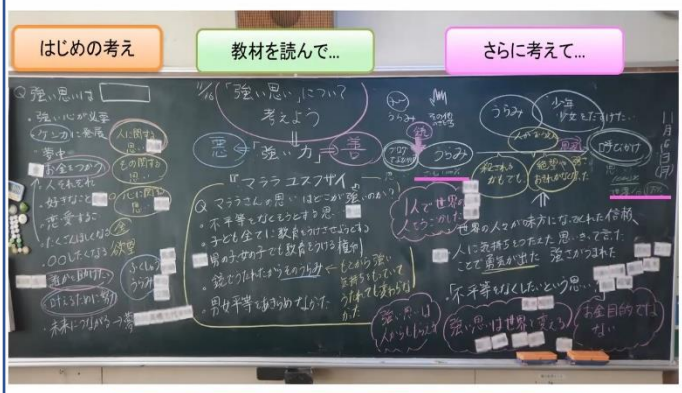
子どもは大人の考えを飛び越える

・子どもから学ぶ

・子供からハッと気づかされる感覚

・子どもが大人の考えを越える時

「マララ・ユスフザイ」一人の少女が世界を変える」



子どもの中には大人が考えもしない発想がある

丁寧に聴いて受け止めていくことが大切

子どもたちから学ぶ①

A.「強い思い」をつくるのは

[　　]です。

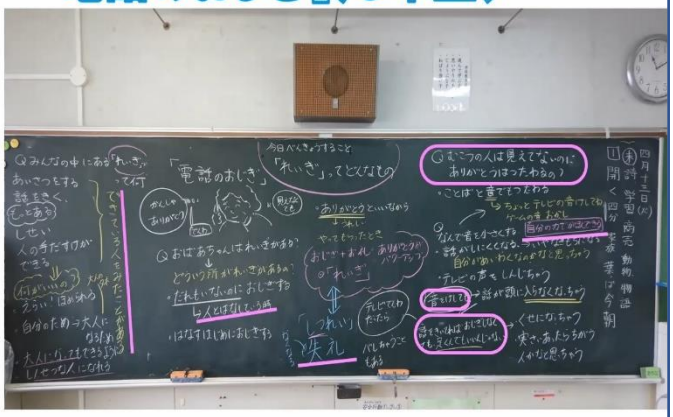
・「うらみ」も一つの強い思い

・強い思いは人からもらう。一人ではできない

・恨みや恐怖も人からの応援によって強い思い（勇気や希望）に変わっていく

・恨みの思いが100％だったとしても、銃で撃たれたことで、人々の思いを受けとめ救いたいという気持ちが1000％になった。

「電話のおじぎ」（3年生）



子どもたちから学ぶ②

A.「れいぎ」とは

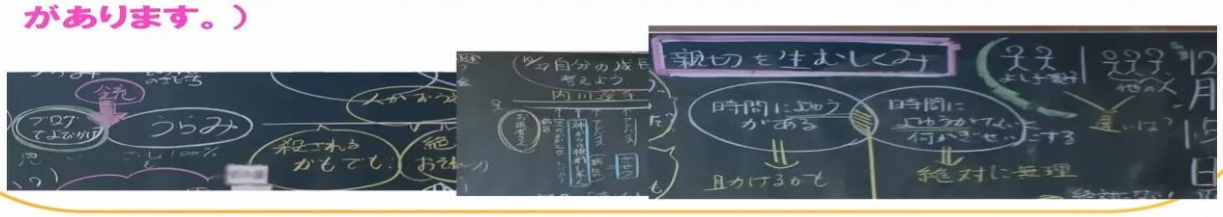
［　　］です。

- れいぎとは『大人のたね』
- おじぎ（行動）＋お礼（感謝）で『ありがとう』がパワーアップする
- れいぎとは自分の力で我慢できるもの
- 実際に見えてなくても、聞こえなくても失礼なことは自分の『心のくせ』になってしまう

子どもの言葉、子どものリアルの方がより本質！？

ここまでのまとめ

- 大人でもちょっと「分からないこと」を問いにしてみては？
  （子どもたちが教えてくれるかも。自分も主体的に授業を創れます。）
- 子どもの考えにどっぷりのっかってみては？
  （「この子の意見は違うな」と決めつけず「なんで？」と聞いてみては？
  子どもたちは本質を教えてくれます。）
- 図を使ってみては？
  （時系列、2つの事象の比較など図の方が、子どもたちにストンと落ちる時があります。子どもたちの話を聴きながら図が思い浮かぶことがあります。）



② 子どもの考えを揺さぶる手立て

子どもを揺さぶる教師の手立て

i 極端な質問をする
- じゃあ、みんな〇〇すればいいよね
- 〇〇がなくても大丈夫だよね。

ii お話の条件を変えてみる
- もし壊しても少しだったら…
- もし、目の前で困っている人がいたら

iii 別の立場で考える
- お店の人
- 見ていた友だちの立場なら
- 魚を取る人
- 買う人
- 魚の立場！

子どもを揺さぶる教師の手立て

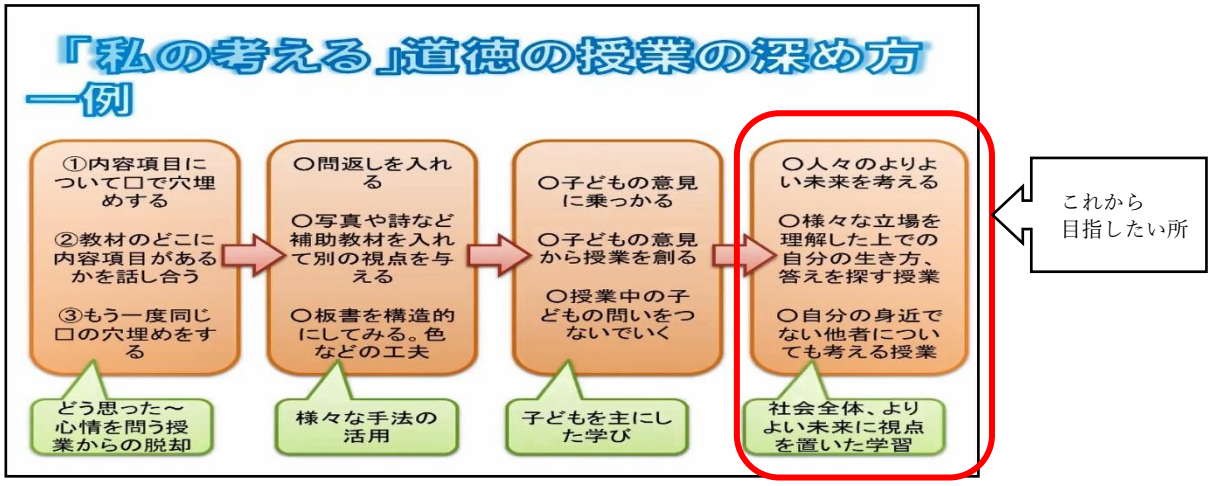
i 極端な質問をする
- 0か100で聞いてみる

ii お話の条件を変えてみる
- 条件を変えても揺るがないものは本質ではないか

iii 別の立場で考える
- 様々な立場から考える事でものごとの実態が見えてくる

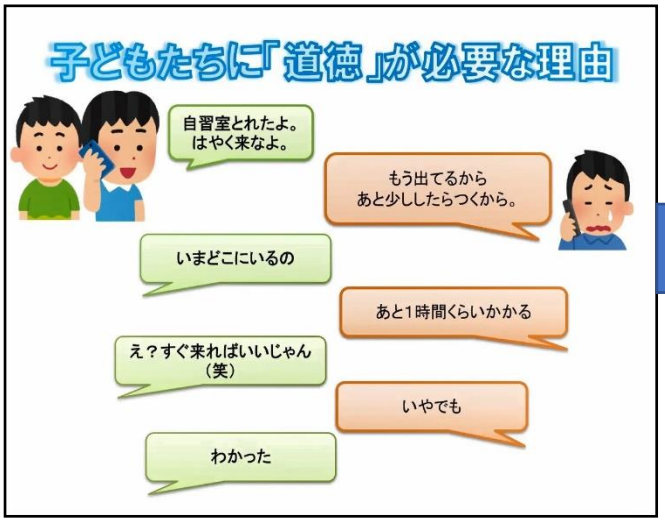
ここに示したのは一例です。他にも
教師が道化を演じる　アンケートをとって子どもの実態と教材のズレを示すなど…色々な手立てがあります。

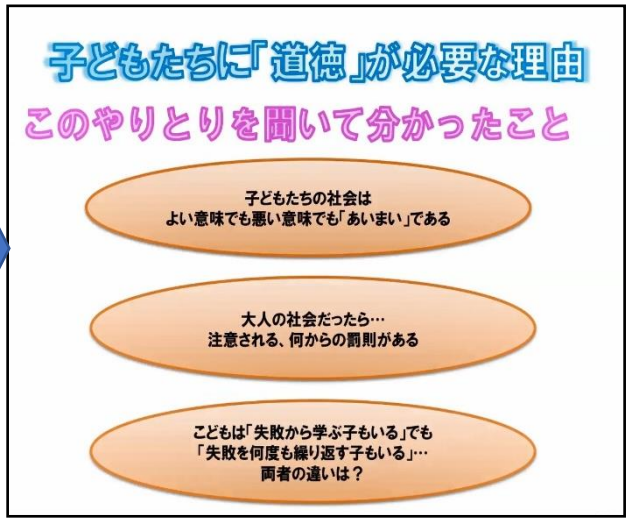
③ 私の考える道徳科授業の深め方

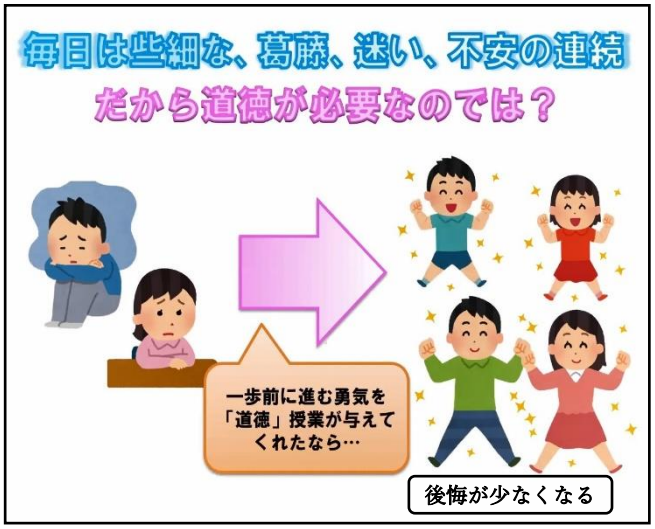


子どもたちに「道徳」が必要な理由

公園で下のようなやりとりをしている高校生を見た。
このやりとりがずっと続いたとしたら、２人の間の
友情にひびが入ってしまうかもしれない。







質疑応答

Ｑ１（参会者）

・１人ひとりをとりこぼさないようにしながら、子どもたちに考えさせる事について、どうやっているのか。

Ａ１（提案者）

・子どもを主にすることによって、教員が思いつきもしない授業になる。意見の言えない子もいることは課題に思っている。みんなをスタートの土台にもっていくのが大切。まずは、今これについて考える、これについてみんなはこう思っているというのを、できるだけ丁寧にやるのが大切。

（司会）

・課題をできるだけ身近なものにしたり、子どもたちが共有しやすいものを課題として扱うと良い。

Ｑ２（参会者）

・「内容項目について□で穴埋めをする」という実践で、内容項目「よりよく生きる喜び」では、どのような授業を行ったのか。

Ａ２（提案者）

・提案した「マララ・ユスフザイ　一人の少女が世界を変える」がその内容項目にあたる。以前は、必ず□で穴埋めをやっていたが、それだと時間が足りなくなるので、最近では、「よりよくって何だろう？」と言葉の意味を聞き、子どもの実態に合わせて授業を行っている。

感想（参会者）

・子どもの考えを揺さぶる手立ては補助発問の話をしていると思った。中心発問に繋がる補助発問、価値を高めるための補助発問は大事だと感じた。

・「子どもたちに道徳が必要な理由は？」について、本田先生に相談した際、「人間が生きていくためのよりどころだ」と話されていたのを思い出した。大人が明確に答えを持ってなければいけないなと思った　　。

Ｑ３（参会者）

・吉田先生が考えている問い返しのポイントは、どのようなものか。

Ａ３（提案者）

・反対の答えを聞くのがオーソドックス。立場を変えてみるなど、子どもの実態に合わせていく。これだけは揺るがないという部分を持ちつつ、それと子どもの意見とをどれだけ結びつけられるかを考えている。教材と子ども、最初の意見と最後の意見など、ズレができた瞬間に問いが生まれ、深く学べる。

Ｑ４（参会者）

・ねらいとの整合性などある中で、授業を子どもたちと創る中で子どもとのやりとりで気をつけていることは何か。

Ａ４（提案者）

・ねらいとズレていると思う事にも、否定せずに一度は乗ってみる。問い返す事でねらいに近づく事が多くある。最後までまとめにもっていかなくても、子どもと何がわからないかを確認する事も大切だと思う。わからない事が何かがわかったという授業もあるのではないか。

感想（参会者）

・ソクラテスの問答法を思い出した。子どもの中から引きだそうとしていると思った。教師と子どもと互いに学び合う事が大切だと思った。子どもが迷った時に新しい事に気付かせられるよう、指導者として、子どもたち以上に価値についての深い理解が必要である。

感想（提案者）

・価値について多面的に把握して分類しておくと、子どもたちの意見が出た時に何に近い事を言ってるのかがわかりやすくなる。

Ｑ５（参会者）

・「学びに向かう力、人間性」があるが、おとなしい子どもに対して、レスポンスはどのように考えているか？

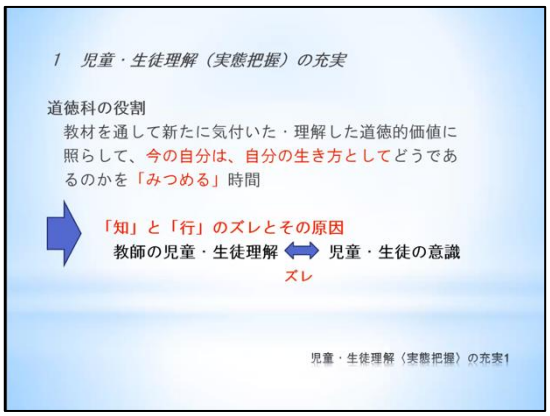
Ａ５（提案者）

・発言力のない子に関しては、こちらから聞く。発言してない時の動き、顔に注目してみる。
発言しない子をどうやって見取るかは課題である。

シンポジウム「これからの道徳教育充実の方略を語る」

本田 正道 先生（日本道徳教育学会評議員）

１　児童・生徒理解〈実態把握〉の充実

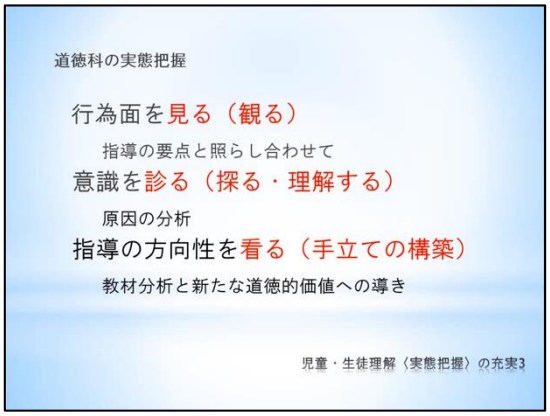


道徳教育や道徳科で最も大事なことは、児童・生徒理解〈実態把握〉の充実だと思う。

道徳科の役割は、教材を通して新たに気付いた・理解した道徳的価値に照らして、今の自分は、自分の生き方としてどうであるのかを「みつめる」時間である。「みつめる」対象は、「知」と「行」のズレとその原因である。そのズレを教師が理解していないと授業で生かすことができない。

実態把握の方策の大元は、学習指導要領解説「特別の教科　道徳編」である。中でも、（１）内容項目の概要、（２）指導の要点の箇所に注目していく。（２）指導の要点では、「指導に当たっては～」の後ろの部分が非常に重要である。

具体的な実態把握の方法を三つ提案する。



実態把握で最初の段階にあたるものが「行為面を見る（観る）」である。行為面を見て、できていること、できていないことを観察する。

二つ目は、なぜ児童・生徒がそのような行為をしているのかを診断し、理解する。これを怠ると、「知」と「行」がズレたままに終わってしまう。

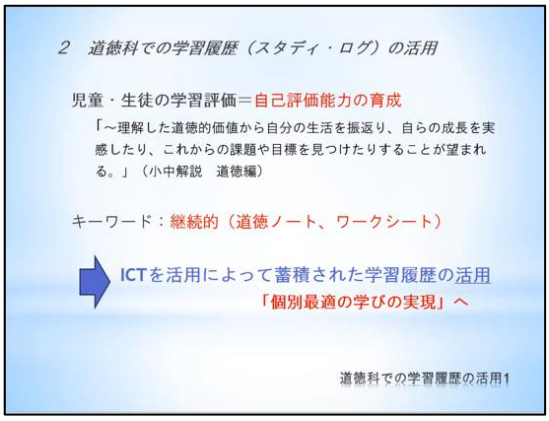
三つ目は、子どもの学びを生み出す授業につなげるために、「指導の方向性を看る」である。教材分析を行い、新たな道徳的価値へ導くための手だての構築を行っていく。

様々な授業を参観すると、実態把握が甘い指導案が多いと感じる。例えば、児童の実態を書く箇所において、行為面の記述のみがされていると、意識や指導の方向性が曖昧になり、授業を構築することが難しくなってしま

う。

2　道徳科での学習履歴の活用

道徳ノートの活用が大事である。ノートのような学習履歴は、道徳科授業のみならず、日常生活における自分を見つめるための道具になる。そのため、児童・生徒の学習評価は自己評価能力を高めることにつながる。



富岡　栄　先生（麗澤大学大学院教授）

Q１　道徳科は補充、深化、統合の時間になっているのだろうか？

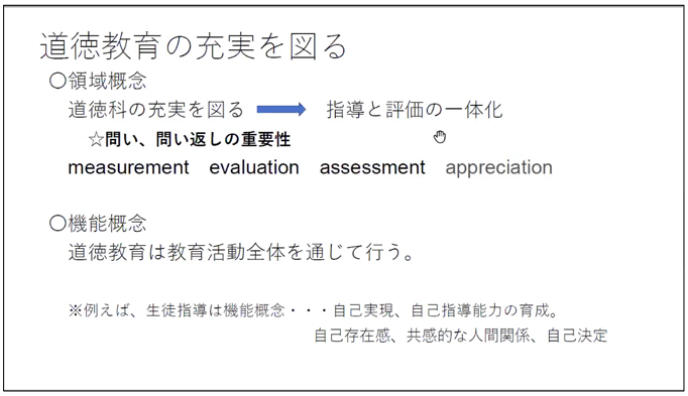
Q２　道徳科と各教科等が双方向であることを考えると、各教科等で道徳性を育むことに努めているだろうか？

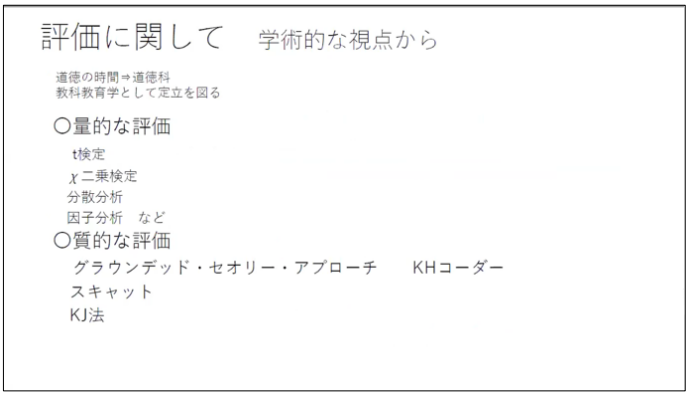
今一度、この二つの問いに向き合うことが大切なのではないか。

道徳科の充実を図るためには、問いや問い返しが重要である。

評価には、measurement, evaluation, assessment, appreciation がある。appreciation とは、その子のもっているものを評価して、それをさらに伸ばしていくための環境を整えていくというものである。道徳科で行なっていくべきは、measurement ではなく、appreciation である。いかに評価が道徳性を伸ばしているのかが重要である。

指導と評価の一体化を進めたり、道徳教育を教科教育学として定立を図ったりするためには、量的な評価のみならず、質的な評価の導入も検証していく必要がある。





大矢　敏克　先生（川崎市立日吉小学校教頭）

なぜ道徳科が必要であるか。正解が用意されているわけではない、多様な価値観が存在する予測困難な時代においても、一人ひとりの子どもは、その置かれている状況を見て、一番ふさわしい判断をしていかなければならない。家庭では育みきれない、判断の拠り所となる自分の考えや思いを育てるために道徳科における集団の中での学びや協働的な学びが必要となる。

一人ひとりの生き方を励まし勇気づける道徳の授業をつくるために「内容項目についての広く深い理解」「幅広い共感力」「コーディネート力」「ギガ構想活用」の四つを提案する。

「個別で最適化な学び

自分の問題（自分事）として課題をとらえる
（自分の思いや考えと乖離していては他人事）

一人ひとりが、今もっている価値に対する
考えや思いを明らかにする
→子どもの特性や考え方を踏まえて
発言の奥底にある思いや考えを汲み取る

「幅広い共感力」

「協働的な学び」

価値に対する多面的多角的な見方を
価値づけ　整理して系統化
個々のもっている価値に対する　思いや考え
→系統的に整理して論点を明確にして話し合う
瞬時の判断
話し合いが積み重なるようにかみあわせる

「コーディネート力」

＜ギガたんのメリット＞

○子どもの意見が瞬時に集約できる
○それぞれの意見を一覧で見渡せる
○1つの文書をみんなで編集できる
○記録を分類整理して保存できる
○記録がすぐに取り出せる

「ギガ構想」の活用

論点を明確にして　子どもの思いをくみあげる

共通点や違いを明らかにして子どもにかえし
自分の考えと比べて再考させる

振り返り改めて自分の思いや今後の生き方を見直す

「教師の見取り」「子ども同士の意見交流」　に有効

「ギガ構想」の活用

「教師の見取り」「子ども同士の意見交流」　に有効

事前に読ませて　意見をとる
○初発の感想　○気になったこと　○話し合ってみたいこと

ギガ端末での意見交換
○子どもたちの意見（カード）を全て並べて　グループ化
○考え方の違いを明らかにして　より良い方法を話し合う

振り返り・後でみんなで読み合う時間をとる

「ギガ構想」の活用

「教師の見取り」「子ども同士の意見交流」　に有効

（打ち込む必要がない　指でかいたものが活字に）

「個人カード」
はじめの考え　話し合い後の考え　振り返り

実際の子どもの姿を吸い上げるのに有効

積み重ねた記録→自己評価　教師の見取り

根岸 久明 先生（横浜市教育委員会北部学校教育事務所授業 改善支援センター、神奈川大学講師）

●道徳教育においてもカリキュラム・マネジメントの考えを生かし循環させることが大切である。

道徳教育におけるカリキュラム・マネジメントがポイント

学校の教育活動全体を通じて行うという特質をもつ道徳教育の充実を図るためには、カリキュラム・マネジメントの考え方を生かすことが鍵となる。

子どもたちがよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする道徳教育は、その目指すものが学校教育目標にしっかり盛り込まれ、さらに特別の教科道徳（道徳科）を要として各教科等での取り組みを横断的に、そして各学年での取り組みを縦断的に貫いて展開される。

さらに、道徳教育は、子どもたちの学校内での学びだけではなく、家庭や地域での生活や社会との関わりなども求められる。

つまり道徳教育を充実させるためには、学校内外の人的・物的資源を効果的活用しながら、意図的、計画的、組織的、継続的に改善を図っていくことが何よりも大事なことである。

カリキュラムマネジメント・ハンドブック　田村知子編著

●旗振りをするリーダーの存在

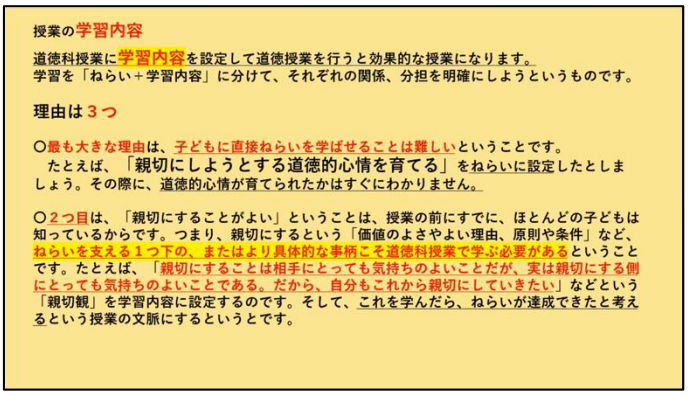
・学校の道徳教育を牽引していくリーダー：道徳教育推進教師

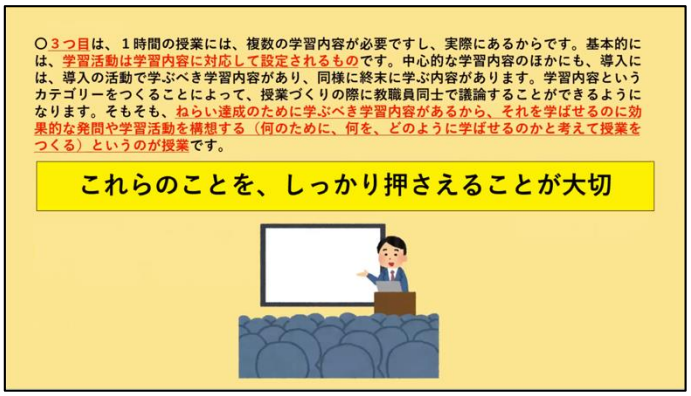
学習指導要領に示された役割を果たしていく。主幹教諭級の指導力の高い教諭が担当することが望ましい。

・学校全体を俯瞰して道徳教育が機能していくように調整するリーダー：校長

校長は、道徳教育が円滑に進んでいくように方針を教職員に示していくようにする。

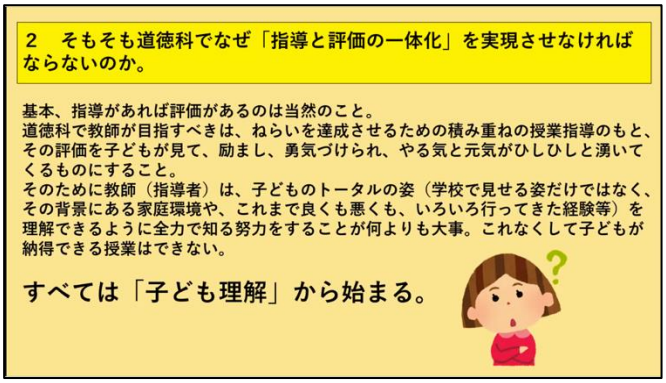
●道徳科の授業の肝を押さえること





●子どもを丸ごと理解する（これなしには指導と評価の一体化はありえない）

子どもを理解していることで、子どもが発言に込めた思いを聴き取り、その子に一番ふさわしい言葉で返していける。さらにこの子の振り返りカードから更に深く理解していくことができる。



【フォーラム総括（三ツ木先生)】

・皆さんの貴重な意見をまとめて総括としたい。

・「道徳科の指導と評価の一体化」というテーマが３年目に入る。「一人一人の」を強調したのが今年度。

・「一人一人の資質能力の育成（令和の日本型学校教育)」「多様な子どもたちを誰一人取り残さない（GIGA 構想)」ということの重要性が言われている。

・「個別最適な学び」「協働的な学び」が一体的に充実しなければならないということを、今日の提案から学ぶことができた。

・田屋先生→感動をとりこぼさない、その子が感じたことがつながり合う環境

・吉田先生→子どもと創る授業、子どもの発言から「なぜ」につなげていく　　というキーワード

・提案を聞きながら、「個の考えが→協働的な学びにつながっていく→個に戻っていく」これができるのが道徳科なのではと思った。

・支部テーマ、今まで以上に子どもたちのよさを認め励まし勇気づけていくことが、よりよい評価につながっていく。

【閉会の言葉（仲川先生)】
・1時からあっという間であった。
・本日の実践提案、フォーラム様々な議論があったが、「子どもを受け止める」という点で、言いたいことはみんな一緒だと感じた。
・個別最適な学びにふさわしいとされる、一人一台をどうとらえるか。GIGA をどうするか。子どもも大人も効果的に使っていくことが大切。特別な支援が必要な子たちも思いを表現できるツールにもなる。タブレット活用も様々実践していくことで、ますます活発で楽しい研究になるのではという思い。